

地域を生かすために 自分にできることをしよう

全員が主役のまちづくりを実践してきた木藤亮太さんの、
地域を良い方向へ導く魔法の言葉を紹介します。

まちづくりの仕掛け人と
受け継がれる意志

宮崎県日南市にひとき
わ注目を集める商店街が
ある。かつては「猫す
歩かない」と揶揄された
油津商店街だが今では
「日南の奇跡」と呼ばれ、
安倍晋三前首相も地方創
生の成功例として挙げた。

“考えるだけじゃなくて
動いちゃえ”

このシャッター商店街
の再生をデザインしたの
が福岡県を拠点に活動し
ていた自治体のコンサル
タント、木藤亮太さん。
老舗喫茶の改装を皮切りに、
食堂や多目的施設など
を次々とオープンさせ、
目標を上回る成果を
上げた。退任後も仲間が

意志を継ぎ古いまち並み
を生かした活動を続ける。



株式会社ホーホウ
代表取締役 **木藤 亮太**さん
1975年生まれ。福岡県那珂川
町(現那珂川市)で育つ。九州芸
術工科大学(現在は九州大学に
統合)大学院芸術工学部修了。
宇城市では起業支援やまちづく
り講座などに携わる。

挑戦と応援の
連鎖をつなごう

木藤さんはこ
う話す。

「実は私が何かをして
いるわけではなく、みん
なが挑戦しやすい状況をつ
くり、後押ししている
だけ。商店街の活気はそ
れぞれが課題意識を持つ
て考え、動いたことの積
み重ねなんです。」

「一つずつの行動は小
さなこと。コーヒー店を
立ち上げた。高校生たち
が夜市を復活させた。大
学生が宿をつくった。小

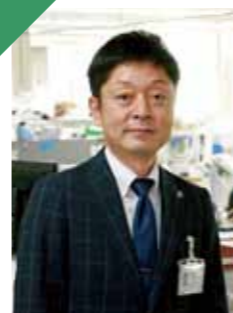
学生アイドルがまちを盛
り上げようと踊ってい
る。そういった小さな
チャレンジとみんなの応
援が連鎖し続けているこ
とが大切なんです。」
「まずは一步を踏み出
しましょう。どんな小さ
なことでも行動すればカ
タチになっていきます。」

地域の良さを生かして
活動しよう

木藤さんは現在、地
元の福岡県那珂川市で
2018年にリニューアル
ビル「ナカイチ」の運営を
引き継ぎ、カフェやワー
クスペース、レンタルス

小川支所がイオンモール宇城へ

小川支所は、12月7日④からイオン
モール宇城へ移転します。場所はキッ
ズUSランドの跡地でニトリの東側。
新しい支所は、時を経ても色あせない
デザインとなるよう、また、市民の
誇りとなることを願い、九州大学芸術
工学研究院と共同で設計しました。
地域の核となる場所に人の流れを作



市長政策室
室長補佐
田川 大輔

地域のつながりの場を創出

ることで利便性を高め、市民と商業施
設、市が三方よしとなることを目指し
ています。
また、障がい者の就労支援カフェを
併設。市民の皆さんが集いやすい空間
づくりにも配慮し、憩いの場を設けて
います。
皆さんぜひご活用ください。

ナカイチに関わる
皆さんに
インタビュー

子どものにぎやかな
声聞きながら、
デザインの仕事をして
います。

夏目ちひろさん

那珂川の食材を使
って作るサンド
イッチをこの名物
にしたいです。

梶 和倫さん

木藤さんと多くの
人の関わりを見なが
ら、場づくりの勉強
中です。

安部 育美さん

学生の意志を聞
き、一緒にやろうと
誘ってくれる大人が
たくさんいます。

作元 希帆さん



ナカイチ2階
レンタルスペースな
どがあり、イベント
などが開催される。

喫茶キャブテンは人
と人をつなぐ場とし
て、常連客だけでなく
多くの人を訪れ、
交流が生まれている



ペースなどを仲間と共に
展開している。
「那珂川市は約1万人
から5万人に人口が増
え、福岡市のベッドタウ
ンとして急成長。福岡市
への依存度が高く、まち
の景色も更新されがちで
す。」と、木藤さん。

“楽しいことを仲間と共に”

他にも、店じまいされ
そうだったまちのシンボ
ルの存在の喫茶「キャブ
テン」の事業を継承。外
観やメニューをそのまま
残し、営業を続けている。
ここでは古いものや自

発的に活動することを大
切にしなが、地域づく
りが進められている。
相手のことを
想像しながら取り組もう

「デザインという言葉
には社会の問題を解決す
るという意
味が含まれ
ています。
ただし、

デザインもまちづくりも
一人ではできません。課
題の解決には必ず相手の
ことを想像しながら取り
組むことが必要。また、
地域は個々の取り組みが
集まって形成されていま
す。コミュニケーション
ションを取りなが
ら、一つ一つを丁寧
にデザインして

“自分たちができる”

“ちっぽけなことが社会を変える”